授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者氏名	人文科学研究所 教授　　富永　茂樹		
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	公共性と親密性の弁証法								

[授業の概要・目的]

18世紀における家族の規模の縮小と内部の関係の親密化の過程を検討したPh.アリエスは最後に「家族の感情と社交性とは相容れないもので、一方が他方を犠牲にしてでしか発達しないのではないか」と、深刻な問題を提起する。この命題が正しければ、近代社会で成長したとハバーマスのいう「公共圏」にかかわる議論には全面的な疑問が付されなくてはならなくなるであろう。他方で同じ時期における「公共人の衰退=親密性の暴政」に注目するセネットは、アリエスと軌を一にし、ハバーマスと対立するかに見えるが、しかしその議論もまた必ずしも説得力をもつとはいえない。この授業では、こうした親密性と公共性の複雑な絡まりを解きほぐすことによって、現代の家族社会学にとってもコミュニケイション論にとっても基本的な概念の整理と総合とを試みる。

[授業計画と内容]

前期ではまず問題のありかの確定と基本的な概念の整理を行ったうえで(1―5)、サロン、クラブ、フランス革命期の民衆協会など、社会のさまざまな局面での社交や公共空間の展開と挫折の過程を検討する(6―14)。
後期に入ってからは、前期で検討した中間的諸集団の衰退と並行して進む活字メディアの拡大と近代的主体の関係に目を向け(1―5)、さらに前期に見てきた諸集団を取り囲むかたちで都市に成長する「群集」の姿をとおして、自己と社会集団いずれもの困難ないし不可能性を見たうえで(6―10)、それが現代社会にまで持ち込まれることで生じるいくつかの問題を確認する(11－14)。
以上の過程を経過するうえで、社会と主体とを見るための基本的視点を提供してくれるのは、文学作品をはじめとするさまざまなテクストであり、これらがたんなる材料というよりは、われわれ自身の思考そのものをかたちづくることになるであろう。

[履修要件]

特別な知識は必要ではないが、18世紀以後今日にいたるまでのコミュニケイションや社交、家族をめぐる問題、広くは公共性と親密性という主題に関心があることが望ましい

[成績評価の方法・基準]

学年末に試験を実施して、1年間の授業内容をどれだけ理解しているかを判定して、これにもとづいて成績評価を行う。

[教科書]

使用しない
　授業で解読するテクストについては、適宜コピーを配布する。

[参考書等]

（参考書）
富永茂樹 『理性の使用―ひとはいかにして市民となるのか』（みすず書房）
Ph・アリエス 『子どもの誕生』（みすず書房）
J・ハバーマス 『公共性の構造転換』（未来社）
R・セネット 『公共人の衰退』（晶文社）
その他必要と思われるものについては、適宜授業中に紹介する予定。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。